



大國魂神社
猿渡 昌盛 氏

時代を超えてまちを 見守る神社

およそ一九〇〇年前に、武蔵国の総社として創建され、現在まで府中のまちとともに歴史を刻んできた大國魂神社。

神社の日常や、文化財を守る取り組みの中でのご苦労などのお話を伺いました。

取材の日は酉の市の翌日で、地元企業の提灯もたくさん飾られていました。

見て回った境内はもちろん、お話しの内容からもその悠久の歴史が感じられ、とても興味深い内容でした。



大國魂神社

大國魂大神 [おおくにたまのおおかみ] を守り神としてお祀りしており、昔この国土を開拓し、人々に衣食住の道や医療を教えこの国土を経営された神様です。会社でいいことがあった友人の病気が早く治って欲しいなどのご奉告やお願いのため、暮らしの一部に「神社参拝」を取り入れてみませんか。

183-0023 東京都府中市宮町3-1

TEL : 042-362-2130





村野広報委員長

本日はお忙しい中ありがとうございます。ご
ざいます。

法人会の広報誌企画として、今
回は「歴史ある事業体」という切
り口でお話をお聞きしたく、お邪
魔しました。これまで若手経営者
の方への取材が続いていたので
すが、今回は長い歴史を持つ神社の
お話をぜひ伺いたいと思っていま
す。

まず御社——いえ、御社ではなく
神社ですね。(笑)

創建の経緯や、長い歴史の中で
大切に受け継がれてきたことにつ
いて教えてください。

猿渡さん

こちらこそ、今日はありがとうございます。
ございます。

当社……ではなく(笑)、当神社
の創建は、景行天皇の御代、今から
およそ二千年ほど前にさかのぼると
伝えられています。

『続日本紀』などの記録によると
西暦百十一年五月五日、この地に神
様がお見えになり、「私をお祀りす
れば世の中は治まる」とおっしゃっ
たことが始まりとされています。

当時のこの辺りは、まだ湿地帯も
多く、今という東京は決して中心地
ではありません。文化や人の流れの
中心は奈良や京都方面でしたが、そ
の中で武蔵野の地にも人が移り住
み、信仰が根づいていったのだと思
います。

村野広報委員長

二千年というと、想像もつかない
時間ですね。

猿渡さん

西暦百十一年と言えば、ずいぶん
昔のことなので本当のことですか？
という感じもしますが、ローマのコ
ロッセオは西暦80年にできていま
す。トラリアヌスの浴場も完成して
いる時代なので、そんなに架空の話
ではなく、それなりの文化もあつた
のではと思っています。

村野広報委員長

府中という土地も、古くから重
要だったのですね。

猿渡さん

そうですね。平安京よりもずっと
前から人が住み、栄えていたと考え
られます。

武蔵国の国府が置かれるのは大化
の改新以降ですが、その土台はもっ
と古い。出雲系の人々がこの地に移
り住んだ痕跡も、古墳や横穴墓など
から見取れます。

国府としてこの地が整備される以
前から人の営みと信仰があつたこと
は確かでしょう。



村野広報委員長

境内の建物は重要文化財になっていると思うんですけども、管理や修繕は大変ではないですか。どのようになされているんでしょうか。

猿渡さん

非常に大変ですね。建物は東京都の文化財指定を受けていますので、修繕には必ず許可が必要です。

今は東京都が半分ほど、残りの五十パーセントのうちの半分を府中市が補助をしてくれています。残りの二十五パーセントが自己負担です。

ただ、今は物が高いんですよ。漆をちよつと塗るだけでも、神社の場合には本漆を使うから、五、六千万円はしてしまいます。

本当は少しずつ直していけばいいんですが、なかなか補助金の申請が下りないので、五年に一回くらいの修繕になっていきます。でも手入れを怠れば朽ちてしまう。人が住まない家が傷むのと同じですよ。

ただ、すべてを昔のままにするのではなく、利便性も大切にしています。

記録として残す「社務日誌」は今も墨（毛筆）書きですが、日常業務はパソコンです。職員もほとんどパソコンで仕事しています。守るものと変えるもの、その両立が使命ですね。

村野広報委員長

そうですね。すべてが古いままというわけにもいかないですよ。

猿渡さん

そうですね。ただ古ければいいというものでもありません。

たとえば、トイレが昔のまま汲み取り式だったら、今の参拝者は困りますよね。

大切なのは、「古い心を守りながら、新しい利便性をどう取り入れるか」。それが今の神社の使命だと思います。

村野広報委員長

企業でも神社でも、そのあたりは同じように悩みますね。

神社の主な「事業内容」についても教えてください。

猿渡さん

宗教法人ですから、第一は神事です。毎朝八時に御日供祭を行い、市民の皆さまの健康や幸福、地域の安寧を神様にお伝えして、お祈りしています。

神職は前日から身を清め、酒も口にせず、厳粛に臨みます。

また、神社は府中市民の大切な財産でもあります。鎮守の森や景観を守り、先人から預かったものを未来の市民に引き継ぐ役割があります。

この辺りも近代的なビルがたくさん建っていますが、周りがビルばかりですと、神社らしくないから、森の管理や櫓並木の維持には多くの費用がかかりますが、それを守っていくことも神社の重要な責務です。

それから駐車場をやっています。これも昭和四十三年十月から始めました。

ちょうど日本のモーターゼーションが盛んになってきて、買い物に車をお使いになる方が多くなったんですが、昔は道路が狭かったのです。

前の府中駅前がごちゃごちゃしていて、車を停めるところがなかったんです。それで、商店街の方から神社の境内に車を停められるようにしてくれないか、という要望がありました。

それで、駐車場をやり始めました。



猿渡さん

でも実は、駐車場を始めた当初はまだ車があんまりなくて、前の宮司が「車がないから、誰も入ってこないんだ。」ということ、神社の車をサクラ用に、止めていたと言っていました。(笑)

村野広報委員長

駐車場も最初は大変だったんですね。

猿渡さん

それから、結婚式をやっていますね。

これも、結婚式はもともと家庭でやるのが普通でした。

「嫁ぐ」という字は、「女」に「家」でしょう。家の中で儀式をやっていたんです。

ところが、生活様式が変わってきて、そういう大きな家も少なくなってくると、「どこか場所を貸してください」となったんです。

猿渡さん

そこで昔あった魚屋のおばあちゃんが社務所を使って、そこで披露宴を始めました。そしたら、皆さんからの評判が良くて。

もっと立派なものを作ろうということになって、昭和三十三年、その隣の建物(参集殿)ができました。戦後まだ十三年しか経っていない頃に、結婚式や宴会を始めたのです。

地域の方のために金額も抑えています。やはりだんだん物価が上がってきているので全く同じとはいきません。

消費税も十パーセントになっているということ、原価がそれだけ高くなるということもあります。もとの原価も上がっていますので、そうすると利益がないんですよ。

昔は結婚式なども、四月、六月、くらの暑くも寒くもない時期にやっていたのですが、今は通年になっているので、二十年くらい前には拝殿にもエアコンをつけました。

村野広報委員長

これでもやはり古いまま、とはいかない部分ですね。物価高も共通の悩みですよ。

猿渡さん

それでも、市民の方々に使用してもらうために調整しながらやっています。



猿渡さん

あとは、神社なのでお参りの方の対応などがあります。

普通の企業のように地域の方と関わることが少ないので、祭りや太鼓、お囃子の場を提供することで、神社が地域の拠点になるように思っています。

村野広報委員長

よく商工祭りでもお世話になっています。

猿渡さん

そういう利用して頂ける部分では神社としてもご協力しています。

あと神社は結構、一時避難所にもなっているんですよ。なので地震の時に、ちゃんと避難してきて頂けるような場として気を付けています。

灯ろうや鳥居、建物などの耐久性の強化や備蓄米。あとは社務所駐車

場の下が防火用水になっています。で、結構な量を溜めています。

村野広報委員長

これからの課題などは何かありますか。

猿渡さん

結婚式などの集中化などですね。

お参りとしてはやっぱりお正月が一番参拝者が多いんですが、結婚式などは、どうしても土日祝日に集中してしまいます。平日も出来ればいいのですが、なかなかそうもいかない。

平日だとゆっくりできますが、土日や連休だと、どうしても集中してしまうので駐車場なども混んでしまし、申し訳ないと思います。

できれば平日も利用があれば良いなと思うのですが、なかなかそうもいきません。

結婚式も、時代によって演出など流行があります。昔、エレベーターのような装置で、ドライアイスとともに新郎新婦が登場するような演出が流行りましたが、うちではそういうのはやっていませんでした。

ですがその時代に遅れないような努力をしなければいけないので、お客様のご要望に応えられるような整備を整えるのは、経営上、本当に苦労しています。



村野広報委員長

中小企業だと、若い人が入りづらいとかすぐやめてしまうという問題があるのですか？

猿渡さん

神社に入ってくるのは神主の子弟の子が多いので、やめる人は多くないです。自分の神社などを継がなければいけないなどの理由で辞める方などはいます。

うちでは社内教育として、舞や立ち居振る舞い、書道にお茶、琴や英会話など、先生を呼んで学んでもらっています。それが嫌だという子がいたら辞めてしまうかもしれないですね。

村野広報委員長

英会話などもやられているのですね。

次世代に継承していきたいことなど教えてください。

猿渡さん

やっぱり、けやき並木はランドマークのようなものですし、長く残していかなないといけないと思っています。

夏は木陰ができて気持ちいいのですが、秋冬は落ち葉の問題もあります。

管理は大変ですが、これも市の方や商店街の方も気持ちよく（落ち葉清掃）してくやってくださっているから、本当にありがたいです。

猿渡さん

ただ、もう少し魅力ある街にしたいなと思います。

原宿の表参道ではないですが、カフェやレストランが道脇にあつて、コーヒーを飲んでいる人や、恋人たちが話しているような街並みができるといいと思います。

ですがチェーン店やマンションばかりで、なかなかそうもいかないですね。だから次世代は、神社を中心とした空間を、(周囲の)ビルの皆さんも含めて、魅力ある街をつくらなければいいかと。





村野広報委員長

最後に、我々法人会としましては、会にご参加いただいた中で、法人会に期待することあれば教えて頂きたいのですが。

猿渡さん

宗教法人は、一般企業との交流が少ない世界です。なので法人会の研修や情報共有の場は、本当にありがたいと思っています。

「E」や「I」など、これから必要になる分野も、取り残されるわけにはいきませんし、法人会を通じて学ばせていただきたいと思っています。

一つの個人商店などではできないことを、皆で解決できる。素晴らしい会だと思います。

猿渡さん

神道の考え方では、過去と今と未来っていうのがずっと続いていて、過去は過去、未来は未来で、今を「中今（なかいま）」と言言います。

ご先祖様がやってきたことなどを、我々は未来へ残していかなきゃいけないという考えがあるんですよ、神道には。ご先祖様のごことに感謝して、今を楽しく朗らかに暮らそうというのが、神社の究極の教えなんですよ。

だから神様の儀式を厳粛にやって、終わったらお神酒を下ろしてきて楽しく飲むじゃないですか。仲間と和気あいあいと楽しくやろうと。

天照大神が天岩戸にお隠れになった時も、岩戸の前でみんなで楽しく踊ったりしたわけですよ。

そもそも神社の教えは、今を生きる人々が祖先や神様に繋がることで、過去のことを大事にして未来に伝える、残して伝えなきゃいけないということなんです。

だから、「今」の人たちだけの資源や財産じゃない。この文化は、過去の人から引き継いで、未来の子どもたちに残すべき財産を「今」、預かっているんだ、ということを考える。



猿渡さん

百年、千年という単位で考えないといけない。過去からのつながりを長い目で見て、それをつないでいくことが今の役目だと考えています。

村野広報委員長

とても素敵な考え方ですね。

本日は本当に貴重なお話をありがとうございました。

猿渡さん

こちらこそ、ありがとうございました。

